

令和 6 年度和順の里事業報告書

1、継続事業（基本事業）

- ① 特別養護老人ホーム（定員 100 名）の経営
- ② ショートステイ（定員 8 名）の経営

2. 令和 6 年度活動報告

和順の里は、令和 6 年度は、新型コロナウイルス感染症などの感染や災害が起こっても施設が持続するために、（1）安定した施設運営を行う、（2）働きやすい環境整備を整備する、（3）介護に関する知識・技術の向上という 3 つの事を成し遂げられるように行った。

（1） 安定した施設運営を行う

○佛教大学との協働事業

1. 佛教大学との協働事業として福祉実習生と看護実習生の受け入れを行った。

福祉実習生	看護実習生
4 人	60 人

- ・看護実習生は、60 人と大幅に増え、佛教大学看護学部との協働事業が行った。
 - ・福祉実習生は、4 人の受け入れを行い、福祉学部との協働を行えた。
2. 季節行事への学生ボランティアについて
 - ・和順の里の 2 大祭りである、桜まつり・秋まつりに佛教大学の学生ボランティアの協力もあり無事開催できた。
 - ・令和 6 年度 6 月より、社会福祉協議会やこぶしの里との共有し和順の里で小学生対象に地域の学び場として地域交流を開始した。その際に、佛教大学の教員や学生の協力で毎月開催できた。
 3. 佛教大学の教員を招いての研修事業は行えていないが、来年度に向けて教員との調整は行うことができた。

○介護報酬改定への対応

- ・令和 6 年度は介護報酬改定があり、新しい加算獲得できるように運営した。
新たな加算：ショートステイの機能訓練指導加算、介護職員等処遇改善加算を増やした。
- ・介護報酬による食事代や居室代の変更対応・家族様への説明・同意を行えた。

○稼働率の向上

- ・施設の収入の安定には長期利用者と短期利用者の稼働が影響する。コロナ禍でも稼働できる体制になるように全職員に認識・理解を行い、令和 6 年度は稼働目標に達成するように職員は努めた。

令和 6 年度長期目標稼働率 95%→結果、令和 6 年度平均稼働率 90.79%

短期目標稼働率 90%→結果、令和 6 年度平均稼働率 92.84%

結果、長期目標は4%低かったが、昨年よりも約2%稼働は上がった。短期目標は目標値よりも約2%以上高く、また昨年度よりも35%稼働は向上した。

令和6年度 月別稼働率

「介護老人福祉施設」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	2,652	2,793	2,714	2,764	2,798	2,751
稼働率	88.4%	90.1%	90.47%	89.16%	90.26%	91.26%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	2,860	2,748	2,888	2,818	2,531	2,821
稼働率	92.26%	91.6%	93.16%	90.9%	90.39%	91.0%

短期（予防）入所生活介護」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	192	154	191	229	254	222
稼働率	80.0%	62.1%	79.58%	92.34%	102.42%	92.5%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	258	234	275	249	218	235
稼働率	104.03%	97.5%	110.89%	100.4%	97.32%	94.76%

「介護老人福祉施設+短期入所生活介護」

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	2,844	2,947	2,905	2,993	3,052	2,973
稼働率	87.78%	88.02%	89.66%	89.4%	91.16%	91.76%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	3,118	2,982	3,163	3,067	2,749	3,056
稼働率	93.13%	92.04%	94.47%	91.61%	90.91%	91.28%

「年間稼働率」

	年間利用者数	年間稼働率
介護老人福祉施設	33,138	90.79%
短期入所生活介護	2,711	92.84%
合計	35,849	90.94%

(2) 働きやすい環境整備

○職員の安定確保について

- ・介護職員について、令和6年度に3人の正規職員を採用したが2人が退職した。嘱託職員について、3名採用し1名退職した。常時、正介護職員数が数名足りない状況であったが協力し合えた。
- ・外国人介護職員は6名働いて5名が夜勤を行えるようになった。令和6年度は、日本人を中心に採用したが、中途採用のみで日本人では高齢採用が増えて長続きしなかった。長く働くことが出来る職員を採用できるように、外国人も含めた長く働いてもらえる職員を採用していくことが必要。
- ・相談員は3名体制で行い、相談員の職務を分担して働きやすい環境で行った。年度末には1名退職する事を受け、事務職員同士で働きやすい環境となるように次年度に向けて行えた。
- ・事務職員は来年度1名退職予定に伴い1名採用した。
- ・看護職員は5名体制（パート含み）で継続できた。

○働きやすい環境整備

- ・生産性向上委員会を始めて施設の働きやすい環境となるようにアンケートを実施した。
- ・ICTについても検討していき、当施設どのようなICT機器を取り入れたらよいか試行を行った。結果としては、Wi-Fi環境が施設全体に整っていないことが確認し、来年度、Wi-Fi環境とICT機器の導入の同時に検討していく。
- ・今年度は職員アンケートをもとに、ショートステイの荷物チェックアプリを採用し、荷物のチェック時間短縮と簡略化により仕事の負担軽減に繋がった。

○外部との交流・連携

- ・医療と介護の連携することで情報が共有でき、病気の早期発見、病院への受け入れ体制強化し、介護の職員の負担軽減に繋がる1つの連携を行えた。
- ・他の介護事業者の介護職員との外部交流を行い、お互いの介護職員が視野を広げて働く機会を設けた。

(3) 介護に関する知識と技術の向上

- 各委員会が研修や勉強会を行い、知識や技術の向上するように努力した。内容については委員会の活動報告を参照。

施設内研修会等の実施

実施月	研修内容	参加人数
5月	令和6年度事業計画・5年度事業報告	13人
5月～7月	手洗い実施研修	50人
5月～3月	感染対策実施状況点検チェック	50人
6月	① 高齢者虐待における基本的知識（通報の義務と虐待5類型） ② 認知症患者に対しての虐待事案	50人
8月	リスクマネジメント「リスクアセスメントの必要性」「ヒヤリハットの重要性」「こんなときどうする？」	50人
8月～9月	「身体拘束3原則と運用方法」「利用者の人権を考える」	50人
8月	「食事介助の注意点」「誤嚥性肺炎について」	
9月	防災対策・要配慮者避難訓練	6人
7月～9月	クラスター時における「ガウンテクニック」「ゾーニング方法」感染研修	3人
9月	新人研修	2人
9月	虐待に関する知識テスト10問形式	50人
11月	夜間救急対応研修リスク研修	50人
11月	褥瘡勉強会「スライディンググローブの使用方法和褥瘡説明」「不適切姿勢の体験」	10人
12月～1月	「身体拘束はなぜ行ってはいけないか」「身体拘束がやむを得ないとされる3つの要件」	50人
1月	感染研修「ノロウイルス対応研修」「ノロウイルステスト」	4人 50人テスト
1月	身体拘束「事例をもとに身体拘束をしないケアについて考える」「センサーマットは身体拘束に該当するのか」「5本指手袋は身体拘束に該当するのか」	10人
1月	カテキン茶での嗽による口腔ケアについて	2人
3月	口腔ケアの重要性について	1人

○ 委員会活動の活発化

令和6年度に活動した委員会は、食事委員会、ケア委員会、褥瘡防止委員会、リスクマネジメント委員会、感染症対策委員会、身体拘束防止委員会、LIFE委員会、行事委員会、地域・広報委員会、入所判定委員会、衛生委員会、口腔ケア委員会、防災対策委員会、生産性向上委員である。

《委員会実施状況》

委員会名	内容	実施回数
行事委員会	入居者の生活に潤いをもたらす、家族等にも参加し、楽しんで頂くための行事を企画し、各部署の協力を得て実行する。(さくら祭り、秋祭り等)	4回
リスクマネジメント委員会	施設内に発生する、ヒヤリ・ハットや事故の事例を集め、その内容の再検討と改善策の妥当性を検討するとともに発生防止のための対策を提案する。また、ヒヤリ・ハット基本的な構えを確認し、職員への意識付けを図る。	6回
褥瘡防止委員会	入居者に発生している褥瘡について現状を調査し、改善のための方策とハイリスクな入居者の褥瘡予防について提案を行う。	6回
感染対策委員会	施設内で起こりうる各種感染症に対する予防策を検討するとともに、感染症の新しい情報について職員に伝える。	6回
ケア委員会	入居者へのサービスの向上を図るため、施設全体の入浴・排泄について検討するとともに、入居者個々に適した、入浴方法、排泄方法について提案する。	6回
食事委員会	入居者により良い食事を提供するために、日々厨房から提供されている食事について、入居者にとっての味、慶状、食べやすさ等を検討し、不適切なものについては、改善を提案し、また、入居者からの要望を厨房委託業者に伝える。	12回
口腔ケア委員会	歯科医師や歯科衛生士の指導を受けながら、入居者の口腔衛生について検討・実行する。	2回
地域・広報委員会	地域社会との協働を模索し、バザーの実施や地域掃除などを行いながら、地域連帯を推進する。また、広報を発行し、関係団体、地域、入居者家族等に配布する。	6回
身体拘束防止委員	拘束について、職員全体に知らしめ、その防止について検討する。	6回
高齢者虐待防止委員会	虐待について、職員全体に知らしめ、その防止について検討する。	7回
衛生委員会	職員の職場環境を整え、施設内の安全・衛生について検討し、改善のための提案を行う。	12回
入所判定委員会	和順の里に入所を希望し、入所申し込みをしている方々に対し、それぞれの状態を把握するとともに、入所の優先順位を協議・決定する。	12回
生産性向上委員会	働きやすい環境をみつける。ICT機器を検討する。	5回
防災対策委員会	起こり得る災害に備えて、施設における予防対策や避難訓練、災害時に対応などについて検討しマニュアル作成を行う。	6回

LIFE 委員会	厚生労働省から介護をデータベース化し生活自立度や栄養状態など入居者のデータを提出しケアの在り方を検証しケアプラン反映して質の高いサービスを提供する。	6回
----------	--	----

○その他、介護の質の向上

- ・入居者だけでなく家族様など外部からの目も多くみられるようになり、コロナ禍以前のような施設環境になった。職員にもその対応ができるように、面会に来られた家族様と直接話せられるように、家族様が記載した面会用紙を直接現場職員に渡していただくことで職員も直接家族様に情報を伝える役割を担ってくれた。その方法は介護知識の向上につながってきている。
- ・職員不足でも、介護の知識向上のため、介護職員には何時でも Web による研修を観ることができるようになっている。
- ・代表者会議から各フロア主任にフロアによる独自の介護の質向上に関する対策を行ってくれた。

フロア介護部署事業報告

1 階介護部署

○入居者へのサービスの維持向上～個別ケアの充実～

入居者が最期まで食事への楽しみを維持できるよう、アセスメントし捕食に嗜好品を提供できた。健康面、金銭面での制約のある中で自由にできない問題もあるが、できる限り個人に寄り添ったケアを行えた。ケアの統一を図るためケアプランに基づいたケアが実施できてはいるがプラン自体が画一的になっている面もあり、個々の生活歴、趣味、嗜好をいかにプランに取り入れ、その人らしいケアプランを作成するかが今後の課題である。

○サービスの質の向上

入居者が安心できる声掛けや言葉遣いができるようにフロア目標にも掲げてきたこともあり意識して入居者に接する職員は増えたが、入居者から職員の対応に対する苦情が聞かれることも度々あり、その都度、職員との話し合いや職員指導を行った。

オンライン研修は全職員が受講できることで知識を深めることに繋がられた。

1Fでも福祉用具の使用対象者が増え、入居者、職員双方にとって安心かつ安全なケアで負担の軽減が図れている。

○楽しみのある行事・アクティビティサービスの提供

施設の2大行事（さくらまつり、秋まつり）や年中行事を通して季節を感じて頂ける催しや食事を行えた。また外出レクリエーションを企画し、入居者への気分転換を図ることができた。集団レクリエーションは実施する機会があったが、個別ニーズに合わせたアクティビティサービスの提供はなかなか実施できなかったので来年度に取り組む。

2 階介護部署

○入居者へのサービスの維持向上～個別ケアの充実

- ・人員状況が悪化し、業務軽減にて時間の捻出を図るも限界があり、日々業務が逼迫しており、各入居者への個別性に目を向けることが困難であった。その中でも出来る限り、馴染みのある食に着目し、通販の活用や家族との連携から定期的な提供を行い、サービスの向上に繋がった。また、問題点だけでなく出来る事に着目し、フロア会議を軸に検討し、問題の解決及び残存機能の維持を図った。

○サービスの質の向上

- ・接遇面に関しては、人員状況の悪化から業務が逼迫となり、職員の心理状態が安定せず時折接遇マナーに反した近い発言や行動がみられたが、各自が本来あってはならない事を自覚して業務を遂行できた。

今後も、人員状況の大幅な改善は見込めない中でも、生産性向上委員会を軸として業務の効率化を図り、時間の捻出を図りながら職員の負担軽減に繋がりたい。

- ・福祉用具を積極的に活用し、職員の負担軽減と入居者の安全安楽に努めた。

今後も機能訓練指導員と連携を図りながら各入居者のADLに応じた方法を模索し、

入居者及び職員の安全を考慮していく。

○楽しみのある四季の応じた行事、アクティビティサービスの提供

- ・夏には夏祭りを企画し、流しそうめんやスイカ割りを行い、楽しみを提供できた。
- ・コロナ対策も緩和し、外出レクリエーションが再開となったが、職員の入れ替わりも多く、経験者が不足していたため外出レクリエーションを行うにあたって、経験者が不足していたため経験者と未経験を1ペアとし、指導を行いながらの実践を行った。
今後は、職員の経験に左右される事無く実践できる体制を構築していく。

3 階介護部署

○入居者へのサービスの維持向上～個別ケアの充実～

入居者の環境の変化により、落ち着いて穏やかに暮らしていけるように対応の工夫を考えながら日々のケアであった。アセスメントからケアプランに沿ったケアを定着させる為にも、モニタリング・プラン内容の理解と言った事が今後の重要な課題であった。

○サービスの質の向上

コロナ禍以前のように面会自由となったが、十分な個別管理や家族様への対応が出来ていなかった。原因として、コロナ禍による面会対応がない時期が通常となって、家族への対応が出来る職員が減ったことが挙げられる。次年度は入居者の体調管理・情報の把握に努め、家族対応を含めてサービスを向上できる職員の育成を図る。

○楽しみのある行事・アクティビティサービスの提供

施設行事では行事委員を先頭に、充実した催しが出来て入居者にも楽しい時間を提供できた。日々忙しい中でもアクティビティサービスで変化のある日常の提供が重要である。次年度の課題として、アクティビティのあるサービスの提供を多く取り入れる。

各職種事業報告

【相談員】

(1) 入退所の状況

令和7年3月31日現在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月末在籍者数	男	17	18	18	18	17	18	19	19	19	18	19	18	
	女	72	75	74	74	74	76	75	75	75	73	73	75	
	計	90	93	92	91	92	92	93	94	94	93	91	92	
退所者	退所事由	死亡 (施設内で看取り)	4 (4)	0	5 (5)	2 (2)	3 (2)	0	3 (3)	2 (2)	2 (2)	4 (4)	2 (1)	2 (2)
		その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		計	4	3	5	2	3	4	0	4	4	6	2	2
入所者	入所事由	在宅	0	1	0	1	0	2	1	0	0	1	0	1
		病院	0	2	2	1	1	0	1	0	0	0	2	1
		介護施設	2	0	2	0	1	1	1	2	1	1	1	0
		計	2	3	4	2	2	3	3	2	1	2	3	2

和順の里においては施設内でのターミナルケアを平成19年度より実施。地域包括ケアシステムの構築により看取りの場が拡大し、入居者の高齢化・重度化から施設看取りのニーズは増大傾向にある。終末期の意向調査においても約9割の家族が当施設で最期を迎えることを望んでおり、令和6年度退所者29名中27名を当施設で看取った。

現行、職員体制において十全とはいえない状況のなか、終末期にある入居者を最期まで人としての尊厳を保つことが出来るよう全人的ケアで支えることが出来た。

○平均年齢と介護度

平均年齢	男性	85.38	要介護度	男性	4.11
	女性	89.84		女性	3.97
	総	88.97		総	4.0

現在、日本の平均寿命は男性：81.09歳、女性：87.14歳であるが、「和順の里」入居者の平均年齢はそれを超え、状態が重度化になっても生活できていると推定される。

(2) 要介護度・寝たきり度・認知症レベルで観る利用者の状況

①男女別要介護度別利用者状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性			4	8	6
女性			24	29	22

②自立度別利用者状況

障害高齢者の日常生活自立度

J	A1	A2	B1	B2	C1	C2
		5	33	43		12

③認知症高齢者の日常生活自立度

自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M
	2		13	40	5	33	

今年度も平均介護度は4.0。入居者の約9割が日常生活自立度に於いてはB.Cランク、認知症自立度に於いてもIII.IVランクと全体的に重度化している。重度認知症に対する中核症状・周辺症状への対応や、慢性疾患の管理など日頃のケアの重要性が高くなっている。

○施設サービス計画書の作成

個別サービスに基づき、入居者の視点に立った生活支援型のケアプラン作成に努め、サービス担当者会議については下記の通り実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施回数	12	11	9	14	12	10	9	10	10	8	11	15

(3) 短期入所生活介護

月	実人数/人	延べ利用日数/日	平均利用日数/日
4月	23	192	8.3
5月	24	154	6.4
6月	22	191	8.7
7月	29	229	7.8
8月	33	254	7.6
9月	27	222	8.2
10月	32	258	8.0
11月	31	234	7.5
12月	34	275	8.0
1月	26	249	9.5
2月	26	218	8.3
3月	27	235	8.7
計	334	2711	8.1

短期入所生活介護では、施設の多様化・選択化、利用者ニーズの変化など、さまざまな背景要因があるが、居宅支援事業所への情報提供を通じて利用者の確保に努め、利用者数を昨年度より増やすことができた。

(4) 長期入所申請状況

京都市介護福祉施設入所ガイドラインに基づき当施設独自で細分化した点数付けを行い、毎月開催している入所判定委員会にて確認、高得点者より順次入所に繋げると云うプロセスで今年度も進めた。要介護度待機者の状況としては、要介護度3が最も多く、次いで要介護度4、要介護度5となっている。基本評価もA判定が半数以上を占める状況となっている。

【機能訓練指導員】

今年度は身体機能に応じた訓練計画と実施できるよう努めた。生活リハビリテーションの充実を図る事に重点を置き、評価はもとより福祉用具を積極的に活用し職種間の情報の共有や連携の強化に力を入れ、利用者個々に応じた生活レベルの中での日常生活動作や環境設定を計画に取り入れ実施した。また個別訓練では、一時的なADLの低下やリハビリ意欲の高い利用者様を中心に個別訓練を行った。

(1) 個別リハビリテーションについて

身体機能やADL維持を目的に機能訓練指導員が直接個別リハビリテーションを実施。

個別実施対象者

訓練プログラム内訳

1F	9名
2F	16名
3F	10名

	1F	2F	3F
関節可動域訓練	8名	6名	6名
起立・立位訓練	3名	4名	
歩行訓練	4名	10名	4名
車椅子操作訓練		1名	
マッサージ		2名	

(令和6年度総人数)

(2) 集団リハビリテーションについて

運動機能の維持向上、他者との交流、楽しみながら自発的に体を動かしてもらう事を目的とし、集団リハビリテーションとして歌に合わせた体操を実施した。1階多目的ホール、2階金閣寺食堂、3階かえで食堂前の廊下で各フロア対象に、週2~3回、約30分間行った。

(令和6年度総人数)

(3) 生活リハビリについて

1階	2階	3階
22名	44名	30名

生活不活発病の予防や残存機能の維持、生活レベルの維持を目的に、日常生活の中で行える動作を訓練計画の中に取り入れ、介護職員の協力のもと実施できた。生活リハビリの充実を図る為、生活リハビリを基盤とした状態に応じた訓練計画の作成に努めました。来年度は介護職員と連携をさらに深め、入居者が意欲的で生き生きとした生活を過ごせられる事に重点をおき深めていく。

生活リハビリテーション実施人数

	1階	2階	3階
座位保持	13名	32名	21名
立ち上がり、立位保持	15名	30名	18名
歩行	6名	22名	20名
ポジショニング、シーティング	8名	27名	25名
車椅子操作訓練	6名	12名	3名
食事動作	5名	9名	8名
軽作業	1名	1名	4名

(令和6年度総人数)

(4) 福祉用具の活用について

今年度は電動ベッドの増大、スタンディングリフト、機器名（ひざたち）等の立位や移乗介助の負担軽減を図る福祉用具の活用や多機能型車椅子、自動ブレーキ付き車椅子、チルトリクライニング型車椅子、プレベンティブシート、トランスファーボード、体圧分散マットレスなど活用し利用者や介護者双方において負担の軽減を図った。

	計
多機能車椅子	40台
チルトリクライニング型車椅子	31台
リクライニング型車椅子	13台
つばさ(座位型移乗ボード)	8台
フレックスボード(臥位型移乗ボード)	9台
ひざたち(移乗補助具)	2台
ささえ手(手動型スタンディングリフト)	1台
エアーマット	13台
耐圧分散マットレス	25台

(合計数)

以上

医務室年間目標(2024年・令和6年度)

『入居者の健康管理に努め、安心・安全・安楽な生活を他職種と共に支援する』

4月	定期採血・定期診察	
5月	〃	
6月		
7月		カルテ整理
8月		
9月		
10月	コロナワクチン予防接種 佛教大学看護学生実習	入居者 64名 ・ 職員 6名 計70名 10月～1月まで、60名受け入れ
11月	インフルエンザワクチン予防接種 胸部レントゲン	入居者 78名 ・ 職員 40名 計118名 イノメディカルにてポータブルレントゲン撮影 91名
12月		
1月		
2月		カルテ整理
3月		

※今年度より、嘱託医指示により、秋の定期診察・定期採血及び採尿検査は中止。

年1回(春)とし、入居者のケースに応じて、嘱託医指示のもと随時採血行い診察にて経過観察とした。

令和6年度 外来診療別 延べ受診者数														
医療機関名	受診科目	受診者数												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
京都市民医連 中央病院	救急外来	1	2		2		4	1	2	2	1	4	3	22
	脳外科		1											1
	放射線科		1				2			2	1			6
	循環器			1					2	1				4
	内科		1											1
	PEG交換													0
	ステント交換													0
	婦人科			1			1			1				3
	腎臓内科							1						1
	泌尿器科	4	2				2		1		1	1		11
	肛門科													0
	眼科		1		1	1		1			1	1		6
	消化器内科									1				1
	ペースメーカー													1
	総合内科													1
MRI							1						1	
太子道診療所	整形		1		1		1							3
シミズ病院	救急外来					1								1
宇多野病院	発作外来									2		1		3
宇多野病院	ペインクリニック	2	2	2	2	1	2		2	2	2	1	1	19
府立医科大学	循環器					1								1
第一日赤HP	消化器外科							2						2
第二日赤HP	口腔外科													0
	ペースメーカー													0
	泌尿器科	1			1			1	1	1		1		6
	眼科				1									1
	救急外来					1								1
西陣HP	循環器科			2	1									3
	救急外来		1			1						1		3
	腎臓 泌尿器外来													0
	糖尿外来													0
	内科		2					1						3
	外科									1				1
	放射線科		1											1
武田HP	救急外来												1	1
丸太町病院	救急外来				1				1				2	
うずまさ診療所	内科							1	1		2		1	5
陶山医院				1	1				1	3				6
川端病院	整形外科					1								1
渡辺西賀茂診療所	皮膚科	5	1				1	2	2	2	1			14
バブテスト病院	整形外科	2		1										3
相馬病院	整形外科	1							1			2		4
	脳神経外科	1			1									2
	泌尿器科	1			1				1					3
つばき医院		1	1	2	2	1	2		2	1	1	1	14	
米村眼科		1												1
鞍馬口医療センター	救急外来			1										1
	ペースメーカー						1						1	2
わたなべクリニック	ペースメーカー			1										1
合計		19	18	12	15	8	17	10	14	16	4	8	7	126

入院月日	医療機関名	診断名	受診時の診療科	入院時(科)	退院日	入院日数	フェイスシート病名	カルテ病名
2月17日	民医連中央病院	肝腫瘍			3月3日	16	済	済
3月23日	北山病院	認知症	精神科	精神科	7月21日	4月29日	なし	なし
5月12日	京都民医連中央病院	誤嚥性肺炎	救急	内科	5月31日	18	済	済
5月16日	京都民医連中央病院	生検	泌尿器科	泌尿器	5月18日	3	なし	なし
5月19日	西陣病院	右腎盂腎炎	救急外来	泌尿器	6月11日	24	済	済
5月30日	京都民医連中央病院	誤嚥性肺炎低ナトリウム血症	救急外来		6月6日	8	済	済
6月17日	西陣病院	大動脈弁狭窄治療前検査入院	循環器	内科	6月19日	3	なし	なし
6月29日	京都民医連中央病院	尿路感染症	救急外来	泌尿器科	7月18日	20	済	済
7月8日	府立病院	大動脈弁狭窄OP目的入院	循環器	循環器	7月22日	15	なし	なし
7月8日	京都民医連中央病院	誤嚥性肺炎	救急外来	内科	8月22日	46	済	済
7月14日	京都民医連中央病院	誤嚥性肺炎	救急外来	内科	8月6日	24	済	済
8月21日	京都民医連中央病院	尿管ステント交換	なし	泌尿器科	8月23日	3	済	済
9月13日	京都民医連中央病院	誤嚥性肺炎	救急外来	内科	10月13日	30	済	済
9月16日	京都民医連中央病院	肺炎	救急外来	内科	9月29日	14	済	済
9月27日	京都民医連中央病院	急性腎盂腎炎	救急外来	腎臓内科	10月5日	9	済	済
9月28日	京都民医連中央病院	腎盂腎炎	救急外来	泌尿器科	10月14日	17	済	済
10月9日	京都民医連中央病院	腎盂腎炎蜂窩織炎	救急外来	内科	10月20日	12	済	済
10月20日	京都民医連中央病院	右股関節骨折	救急外来	整形外科	11月7日	19	済	済
10月25日	京都民医連中央病院	肺癌 癌性胸膜炎	救急外来	呼吸器内科	11月11日	18	済	済
11月2日	京都民医連中央病院	肺炎 尿路感染	救急外来	内科	11月14日	13	済	済
11月6日	京都民医連中央病院	コネバクテリウム菌血症・関節リウマチ疑い	循環器内科	総合内科	12月1日	26	済	済
11月18日	京都民医連中央病院	ペースメーカー電池交換		循環器	11月27日	10	済	済
12月12日	京都民医連中央病院	左腎盂腎炎菌血症	救急外来	総合内科	12月30日	19	済	済
12月29日	京都民医連中央病院	うつ血性心不全	救急外来	循環器内科	1月19日	22	済	済
1月1日	京都民医連中央病院	十二指腸狭窄胆管炎を伴う膵頭部癌	救急外来	腫瘍内科	1月15日	15	済	済
2月1日	西陣病院	直腸潰瘍	救急外来	本館3F	2月15日	15	済	済
2月4日	京都民医連中央病院	急性肺炎	救急外来	総合内科	2月17日	14	済	済
2月4日	京都民医連中央病院	急性腎盂腎炎左舌区肺炎	救急外来	4A	2月12日	9	済	済
2月12日	京都民医連中央病院	肺炎	救急外来	4A	2月27日	16	済	済
2月13日	京都民医連中央病院	死亡退院(老衰)	救急外来	内科	2月22日	10	済	済
3月4日	武田病院	誤嚥性肺炎	救急外来	呼吸器内科	3月22日	19	済	済
3月7日	京都民医連中央病院	尿路感染症	救急外来	4B	3月15日	9	済	済
3月20日	京都民医連中央病院	誤嚥性肺炎尿路感染(疑)肉眼的血尿	救急外来	4C	3月31日	11	済	済
3月26日	京都民医連中央病院	尿路感染症気管支炎	救急外来		入院中			

【厨房・栄養士】

(1) 食欲低下・嚥下困難・咀嚼力低下にあわせた食事の提供

食欲低下の方には、介護職員と共に嗜好の調査を行い、個人の嗜好にあった食品の提供や、個人にあった食器の使用により食事環境の改善を行った。

嚥下困難・咀嚼力低下の方への食事については、行事食や松花堂弁当の時には委託業者と共同でソフト食の導入ができた。また、日常の食事においては、栄養補助食品を組み合わせたゼリー食を提供し、栄養摂取できるように対応した。

(2) 季節ごとの行事にあわせた献立作り

季節の食材を取り入れたお弁当やお膳を提供し、普段とは違った雰囲気味わえた。

	行事名	料理名
4月	お花見	お花見弁当
5月	端午の節句	山菜散らし寿司 柏餅
6月	夏越の祓え	水無月
7月	七夕	七夕膳
9月	敬老会 秋分の日	敬老弁当 おはぎ
12月	クリスマス 大晦日	クリスマスランチ 年越しそば
1月	お正月 七草 鏡開き	おせち料理 七草粥 おぜんざい
2月	節分	巻き寿司
3月	桃の節句 春分の日	ひな寿司 甘酒 ぼたもち

(3) 選択メニューによる個人の嗜好にあった食事の提供

選択する楽しみのあるメニュー作りをするため、入居者からのリクエストも取り入れ、実施した。

(4) 栄養ケアマネジメントの実施。入居者一人一人にあった栄養量の設定や嗜好にあった食事の提供。

栄養状態の改善を行うため、個人にあった食事量の調整や栄養補助食品で代用した。また他職種と連携し栄養状態の維持・改善に努めることができた。

(5) 調理・おやつレクリエーションの実施

入居者に食事を通して、その季節に味わうお菓子作りを実施した。入居者には目で見る、匂いを感じる事で食べることへの意欲を引き出した。

(6) 食事委員会を定期的に開催し、入居者や介護職員の意見を取り入れ、献立作成や行事食に活かす事ができ食事内容の改善に繋がった。

(7) 月に1回、普段とは違ったおやつ時間を過ごすように喫茶を開催した。お菓子は毎回数種類準備し、入居者にメニューを選ぶ楽しみも同時に提供できた。他にも洋菓子を代理購入し、おやつ時に選択して食べてられるような企画も実施した。

(8) 食中毒予防のための衛生管理、作業工程の見直しを実施。

委託業者のマニュアルに沿った管理の見直しを委託業者と協働した。

また、随時必要な食器を見直し入れ替えを行い、衛生管理に努めた。

(9) 非常食の整備を実施

普段から少し多めに食料を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食品を備蓄しておく防災・備蓄方法でとり、無駄なく備蓄するローリングストック法を取り入れた。

(10) 入居者総食数・ショートステイ総食数

入居者総食数

	ふつう食	粗さざみ食	きざみ食	超さざみ食	ミキサー食	ハーフ食	ムース食	注入食	総数
入居総食数	21905	26261	23707	0	5390	5343	16172	413	99191
月間食数	1825	2188	1976	0	449	445	1348	34	8265

ショートステイ総食数

	ふつう食	粗さざみ食	きざみ食	超さざみ食	ミキサー食	ハーフ食	ムース食	注入食	総数
ショート総食数	4404	2156	638	0	17	0	17	0	7232
月間食数	367	180	54	0	1	0	1	0	603

【事務】

事業活動計算書より

和順の里の収入の約97%は介護保険事業収入及び個人からの利用料金による収入である。令和6年度は、介護報酬の改正があり基本単価と居住費が増額となった。総稼働率も昨年度より3.8%増加したこともあり2,000万円程の増収となった。

人件費支出は、正職員の入退職者は少なかったが、不足していた生活相談員の採用ができた。嘱託職員・パート職員は若干増加したため、昨年度より増額となった。事業費支出は、稼働率が昨年度より上がったこともあり給食費は増額となったが、水道光熱費は、空調機器の入替や燃料調整費が安定価格になり、費用が減少した。事務費支出は、業務委託費の給食業務委託は、物価高騰により給食業務の管理費用の高騰により増額となった。また、一昨年度、12月に空調機器を更新し3ヵ月分の賃借料の経費でしたが、今年度から1年分の経費が発生するため賃借料は増額となった。修繕費は突発的な機器の故障が無く予算内で納めることが出来たので減額となった。

当期活動増減差額ですが、今年度は、1,951,368円になり、次期繰越活動増減差額は129,052,456円になった。

収支計算書より

介護保険事業収入は、予算内の収入になった。人件費・事務費・事業費支出は、概ね予定通りの支出に収めた。予算での当期末支払資金残高は816,000円となっていたが、決算では2,599,715円になった。今年度の当期末支払資金残高は、2,599,715円増額することになり、171,620,262円となった。

その他

社会福祉充実残額の作成及び介護サービス事業者経営情報の書類を作成し正確な情報を公開できるように書類を整備しています

総括

安定した施設運営について、コロナ禍から全職員に施設運営への説明・理解を求めて令和6年度は2年目を迎え、入居者への介護の質向上とともに合わせて、各職員が運営についても、考え実践してくれた年となりました。

職員努力もあり、コロナ感染者は職員・入居者合わせて10名以内に収まり、コロナ禍以前の面会対応に近づくことが出来た。

職員については、大きな増減はなかったが、令和6年度に就職された職員が続けられることが出来なかったことで1年を通じて目標の職員数に至らなかった。職員確保は今後の運営に大きく関わることであり、来年度は職員数の目標値を目指し、職場環境の改善に向ける。地域の関わりは、佛教大学との協働により地域の子どもと関わりを持てるようになった。今後も佛教大学との協働を深めながら、当施設の職場環境向上に取り組みしていく。